

第26回看護研究会によせて

2005年は慌しく、めまぐるしく変化の多い年でした。8月には院長・副院長の交代があり一連の事故に対して遺族からの安全な医療に対する10か条が提案されました。毎年8月1日を「医療安全管理（医療事故メモリアルデー）の日」に制定し、この日は亡くなられた方を追悼すると同時に医療安全に対する私たちの決意を確認する日としました。それ以外の事項についても真摯に受け止め、継続して改善努力を続けています。

診療体制については講座制を廃止して、臓器別診療体制へと変更し整備されつつあります。手狭で余裕のない建物をこれ以上はないというほど知恵を絞ってスペースを生み出して化学療法センター、総合診療科などを開設しました。まだまだ混乱はありますが患者さまにとって安心して治療を受けられる医療環境作りをしています。

看護部門にとっては例年にない看護師不足でしたが、逆に業務をスリム化できるチャンスとなりました。リネン交換の外注化、看護助手の増員が出来ましたので少しでもベッドサイドでの看護時間が増えてくれればと願っています。

厳しい勤務状況の中、第26回目の研究会を開催できることを本当に嬉しく思います。

看護の質の向上と、自己の成長を目指し、いい看護を提供したいという願いがこの力を継続させているのだと思います。発表だけでなく現場の変化につながるよう活発な討議を期待します。

2006年3月

看護部長
阿部満子